T.Mori

THE KEIHAN HAI

第69回 京阪杯（GⅢ）

	1着	2着	3着	4着	5着
本賞	41,000,000円	16,000,000円	10,000,000円	6,200,000円	4,100,000円
付加賞	644,000円	184,000円	92,000円		

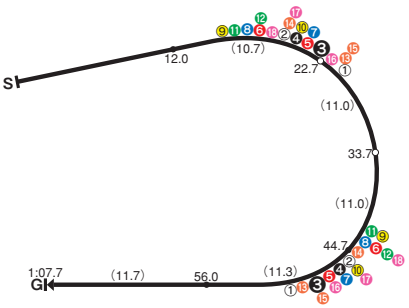
レース映像はコチラでご覧いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量　3歳56*▫4歳以上57*▫、牝馬2*▫減、2023.11.25以降ＧⅠ競走（牝馬限定競走を除く）1着馬3*▫増、牝馬限定ＧⅠ競走またはＧⅡ競走（牝馬限定競走を除く）1着馬2*▫増、牝馬限定ＧⅡ競走またはＧⅢ競走（牝馬限定競走を除く）1着馬1*▫増、2023.11.24以前のＧⅠ競走（牝馬限定競走を除く）1着馬2*▫増、牝馬限定ＧⅠ競走またはＧⅡ競走（牝馬限定競走を除く）1着馬1*▫増（ただし2歳時の成績を除く）

2024.11.24　京都　曇・良　芝1200ﾒｰﾄﾙ　（国際）（特指）

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム（着差）	コーナー通過順位	上り（600ﾒｰﾄﾙ）	馬体重（増減）	単勝オッズ	調教師	ﾚｰﾃｨﾝｸﾞ
1	③	ビッグシーザー	牡4	57	北村友一	1:07.7	5-3	33.7	518（±0）	4.7①	西園正都（栗東）	111
2	①	ウインカーネリアン	牡7	57	三浦皇成	クビ	1-1	34.1	522（+10）	6.6③	鹿戸雄一（美浦）	110
3	②	ヴェントヴォーチェ	牡7	57	M.デムーロ	1¾	10-9	33.6	528（+10）	28.1⑩	牧浦充徳（栗東）	106
4	④	ブルパレイ	騸5	57	浜中　俊	ハナ	8-7	33.8	494（+6）	37.0⑪	須貝尚介（栗東）	106
5	⑧	サブライムアンセム	牝5	55	西塚洸二	1	16-13	33.3	496（+2）	57.8⑫	藤原英昭（栗東）	
6	⑦	ドロップオブライト	牝5	56	幸　英明	ｱﾀﾏ	6-7	33.9	438（−2）	10.8⑦	福永祐一（栗東）	
7	⑪	カンチェンジュンガ	牡4	57	団野大成	クビ	17-17	33.1	484（+2）	9.0⑥	庄野靖志（栗東）	
8	⑥	アグリ	牡5	57	斎藤　新	クビ	14-13	33.5	500（−4）	7.8⑤	杉山晴紀（栗東）	
9	⑤	グレイトゲイナー	牡7	57	岩田康誠	1½	6-5	34.4	476（+8）	128.6⑮	森　秀行（栗東）	
10	⑩	グランテスト	牡4	55	岩田望来	1¼	8-9	34.3	476（+4）	11.8⑧	今野貞一（栗東）	
11	⑭	モズメイメイ	牝4	56	国分恭介	½	10-12	34.3	466（+2）	7.2④	音無秀孝（栗東）	
12	⑬	テイエムスパーダ	牝5	56	小沢大仁	クビ	2-2	35.1	510（+16）	117.0⑭	木原一良（栗東）	
13	⑨	レッドベルオーブ	牡6	57	池添謙一	ｱﾀﾏ	18-17	33.8	488（+4）	229.3⑰	河嶋宏樹（栗東）	
14	⑫	エイシンスポッター	牡5	57	H.ドイル	クビ	14-13	34.1	502（+12）	6.3②	吉村圭司（栗東）	
15	⑮	チェイスザドリーム	牝5	55	西村淳也	2½	2-3	35.5	480（−2）	19.2⑨	矢作芳人（栗東）	
16	⑯	マメコ	牝5	55	高倉　稜	2	4-5	35.7	466（+8）	161.4⑯	武　英智（栗東）	
17	⑰	レッドヒルシューズ	牝4	55	藤岡佑介	3½	10-9	35.8	454（+2）	67.5⑬	武　英智（栗東）	
18	⑱	ラブタス	騸8	57	河原田菜々	½	13-13	35.6	474（−5）	301.4⑱	渡辺薫彦（栗東）	

単勝③470円（1ﾍﾝｹﾞ）　複勝③190円（1ﾍﾝｹﾞ）　①250円（4ﾍﾝｹﾞ）　②740円（11ﾍﾝｹﾞ）　枠連①-②1,220円（3ﾍﾝｹﾞ）
馬連①-③1,670円（2ﾍﾝｹﾞ）　ワイド①-③700円（1ﾍﾝｹﾞ）　②-③2,410円（30ﾍﾝｹﾞ）　①-②2,820円（32ﾍﾝｹﾞ）
馬単③-①3,110円（2ﾍﾝｹﾞ）　3連複①-②-③11,490円（33ﾍﾝｹﾞ）　3連単③-①-②44,370円（109ﾍﾝｹﾞ）



通過タイム：600ﾒｰﾄﾙ 33.7 - 800ﾒｰﾄﾙ 44.7 - 1000ﾒｰﾄﾙ 56.0　上り：800ﾒｰﾄﾙ 45.0 - 600ﾒｰﾄﾙ 34.0

アラカルト

- 北村友一騎手はダノンスマッシュで制した18年に続く京阪杯2勝目。ＪＲＡ重賞は24年5勝目、通算32勝目
- 西園正都調教師はハクサンムーンで制した12年に続く京阪杯2勝目。ＪＲＡ重賞は24年初勝利、通算31勝目
- ビッグアーサー産駒はＪＲＡ重賞通算6勝目
- 非抽選馬　4頭（アネゴハダ、カルチャーデイ、ベアポルックス、ミルトクレイモー）

ビッグシーザー *Big Caesar*

牡　芦毛　2020.3.10生
北海道浦河町　バンブー牧場生産
馬主・幅田昌伸氏　栗東・西園正都厩舎
馬名意味・偉大なシーザー。英雄

アンナペレンナUSA系　F8-h

ビッグアーサー 鹿毛　2011	サクラバクシンオー 鹿毛　1989	サクラユタカオー
		サクラハゴロモ
	シャボナUSA 鹿毛　2005	Kingmambo
		Relish
アンナペレンナUSA Anna Perenna 芦毛　2013	Tale of Ekati 鹿毛　2005	Tale of the Cat
		Silence Beauty
	Maria's Storm 芦毛　2004	Maria's Mon
		Bayou Storm

5代までのインブリード：Mr.Prospector S４×M５　Storm Cat M４×M４
Northern Dancer S５×S５

INTERVIEW

竹田辰紀社長（バンブー牧場）

喜びもひとしおです

今回が重賞初勝利でもあり、本馬の初めての重賞挑戦だった23年葵Sの勝ち馬モズメイメイにも勝てたので喜びもひとしおです。父のビッグアーサーもうちの生産馬で、本馬はその２世代目。生まれた時は父と似た体形で、手先の軽いスピードがありそうな馬だなという印象を持ちました。このまま無事にいって、高松宮記念で父仔制覇を達成してほしいと思います。

父ビッグアーサー

北海道浦河町　バンブー牧場生産　中央、香15戦８勝(高松宮記念^{G_I}、セントウルS$^{G_{II}}$、京阪杯$^{G_{III}}$２着、北九州記念$^{G_{III}}$２着、阪神C$^{G_{II}}$３着)、18年から供用〔代表産駒〕**トウシンマカオ**(セントウルS$^{G_{II}}$、京阪杯$^{G_{III}}$２回、オーシャンS$^{G_{III}}$、スプリンターズS^{G_I}２着)、**ビッグシーザー**(本馬)、**ブトンドール**(函館２歳S$^{G_{III}}$、ファンタジーS$^{G_{III}}$２着)、**ブーケファロス**(マーガレットS・L２着)、**ウインモナーク**(ラピスラズリS・L３着)、クリスアーサー(中京２歳S^{O_P})

母アンナペレンナUSA

中央21戦３勝。14年輸入

ビッグシーザー 本馬(20 牡父ビッグアーサー)中央18戦７勝(京阪杯$^{G_{III}}$、オパールS・L、淀短距離S・L、マーガレットS・L、中京２歳S^{O_P}、福島２歳S^{O_P}、オーシャンS$^{G_{III}}$２着、函館スプリントS$^{G_{III}}$３着、葵S$^{G_{III}}$３着) 獲得総賞金199,760,000円

ビッグドリーム(21 牡父ビッグアーサー)中央７戦２勝(萌黄賞、中京２歳S^{O_P}２着、カンナS^{O_P}３着)㊐

(22 前年種付せず)

ビッグヒーロー(23 牡父コントレイル)

(24 牡父サートゥルナーリア)

祖母マリアズストーム Maria's Storm

アメリカ産　不出走

クラウドバンク Cloud Bank(09 牝父Afleet Alex)北米０勝、アイリッシュチャーリー Irish Charlie(ナーサリーS・加２着)の母

アンナペレンナUSA(13 前出)

ウーマンオブラブ Woman of Love(15 牝父Maclean's Music)北米５勝

曾祖母バイユーストームUSA

北米０勝。07年輸入、20年用途変更

バイユーブリーズ Bayou Breeze(02 牝父A.P.Indy)北米３勝(リヴィデアS)、リブランディド Rebranded(ライリーアリソンフューチュリティ・米、カリボットH・米、マインザットバードダービー・米２着)の母

サンダーバイユー Thunder Bayou(03 牝父Thunder Gulch)北米０勝、**ムシャウィッシュ** Mshawish(ドンH・米^{G_1}、ガルフストリームパークターフH・米^{G_1}、フォートローダーデールS・米^{G_2}、ザビールマイル・首^{G_2})の母

マリアズストーム Maria's Storm(04 前出)

メテオロロジスト(07 牡父Golden Missile)持込 中央５勝(アルデバランS^{O_P}、ブラジルC^{O_P}２着、仁川S^{O_P}２着、地方１勝(佐賀記念$^{J_{GIII}}$)

T.Mori

ビッグアーサー産駒が３連覇達成！

ジャパンCデーの締めくくりに行われるのが恒例となった別定のスプリント重賞・京阪杯は、ひと桁の単勝オッズを記録した馬が６頭を数え、ハンデ戦のような混戦ムードのもとで争われた。上位拮抗と目されたなか、頭ひとつ抜けた支持を集めたのは同舞台のオープン特別・オパールSを制し、弾みをつけて臨んできたビッグアーサー産駒ビッグシーザー。背負った期待に応え、何度も跳ね返されてきた〝壁〟をついに突き破った同馬は、４歳の秋に嬉しい重賞初制覇を果たした。

ジャパンCとは裏腹に逃げ候補が散在、注目された先行争いだったが、抜群のダッシュで飛び出したウインカーネリアンは同型馬に競り込む余地を与えずに主導権を奪取。前半６００㍍の通過が33秒７と、水準級のラップを刻んで風を切る。スタートから気合をつけて位置を取りに行ったビッグシーザーの北村友一騎手は好位のインを確保。対して２番人気に支持された前年の３着馬エイシンスポッターは、少し追走に苦労しながら後方を進んだ。

十分な手応えを保ったまま４コーナーを回ったウインカーネリアンは、直線に向くと馬場の真ん中へ進路を取ってスパート、好位勢を突き放しにかかる。とはいえさほど離されず、これに続いた北村騎手は馬場の外めに持ち出して反撃し、直線半ばからは２頭の一騎打ちに。押し切るか、差し切るか。固唾をのむ追い比べの軍配は、粘りに粘るウインカーネリアンをクビ差にねじ伏せたビッグシーザーにあがった。

前２年間の覇者トウシンマカオとあわせ、ビッグアーサー産駒による〝３連覇〟を達成した本馬は、２歳夏のデビューから一貫して芝１２００㍍戦に使われてきた経歴を持つ。これまでリステッドの３勝を含め、オープン特別５勝の実績を誇る半面、重賞はオーシャンSの２着が最高着順と悔しい足踏みを繰り返していたが、この日は８度目の挑戦で念願のタイトルを獲得。５歳時の高松宮記念でGI初制覇を果たした父の背中を追いかけ、さらなる飛躍への一歩を踏み出した。